

## 「三笠フーズ 事故米不正転売問題について」

2008年9月、米粉加工販売会社「三笠フーズ」(大阪市)が、事故米を食用と偽って転売していた問題が発覚しました。農薬のメタミドホスが残留している米や、発癌性のあるカビからできたアフラトキシンを含んだ事故米を、工業用として仕入れておきながら食品メーカーに転売していたことが農水省の調べにより判明したものです。

各メディアにて連日報道された今回の事故米不正転売で、酒類業界にておいても焼酎メーカー9社、清酒メーカー1社、計10社が問題の事故米を使用し製造していたことが分かりました。

対象となったメーカーは購入した米が事故米である事実を知らず詐欺まがいの取引に巻き込まれた被害者であることは間違いありません。安心・安全である事を前提に使用し続けたものが不正転売されたものだったという事実を目の前にした憤りと落胆は計り知れません。

しかし何よりも、販売関係者や一般消費者の方々の信頼を裏切る結果となったことは大変残念なことです。幸いにも公的機関による検査では「安全性」が認められ、安堵しております。

産地偽装表示など、食品業者の不正が後を絶たない中での「食の安全、安心」を揺るがした今回の事態。酒類業界では「風評被害が心配」と、消費への影響を懸念する声も出ています。

メーカー各社は現在、今後の再発防止の為、管理体制の一層の強化を図るとともに、商品の安全性と信頼回復の為に全力を尽くして取り組まれています。

ホームページ”焼酎紀行”を運営する弊社としましても、メーカー様のブランド回復と当該商品を含む商品の拡売に尽力致す所存です。そしてこれからも安心して楽しめる商品情報、焼酎文化の素晴らしさを広く情報発信しながら、焼酎業界の振興にお役に立てられるよう努めて参りたいと思います。

ヤマエ久野株式会社 酒類部  
常務取締役 成重富保